

2022年2月28日

株主各位

第37期定時株主総会招集ご通知に際しての インターネット開示事項

連結株主資本等変動計算書
連結注記表
株主資本等変動計算書
個別注記表

上記の事項につきましては、法令及び定款の規定に基づき、インターネット上の当社ウェブサイト (<https://www.dksiken.co.jp/>) に掲載することにより株主の皆様提供しております。

 株式会社 **土木管理総合試験所**

証券コード：6171

連結株主資本等変動計算書

(2021年1月1日から2021年12月31日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本				
	資 本 金	資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	自 己 株 式	株 主 資 本 合 計
当 期 首 残 高	1,204,820	1,155,319	2,085,806	△24,047	4,421,899
当 期 変 動 額					
剰 余 金 の 配 当			△129,633		△129,633
自 己 株 式 の 取 得				△142,672	△142,672
自 己 株 式 の 消 却		△498	△166,221	166,719	—
親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益			213,303		213,303
株 主 資 本 以 外 の 項 目 の 当 期 変 動 額 (純 額)					
当 期 変 動 額 合 計	—	△498	△82,551	24,047	△59,002
当 期 末 残 高	1,204,820	1,154,820	2,003,254	—	4,362,896

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	△21,445	△245	△21,690	4,400,208
当期変動額				
剰余金の配当				△129,633
自己株式の取得				△142,672
自己株式の消却				—
親会社株主に帰属 する当期純利益				213,303
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	16,906	△89	16,816	16,816
当期変動額合計	16,906	△89	16,816	△42,185
当期末残高	△4,538	△334	△4,873	4,358,022

連結注記表

(連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数及び主要な連結子会社の名称

連結子会社の数

6社

連結子会社の名称

株式会社アイ・エス・ピー

株式会社アースプラン

株式会社クリエイト

株式会社沖縄設計センター

C.E.LAB INTERNATIONAL CO., LTD

株式会社アドバンスドナレッジ研究所

株式会社アドバンスドナレッジ研究所は、当連結会計年度において新たに株式を取得したため、連結の範囲に含めております。

2. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

3. 会計方針に関する事項

(1) 資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のあるもの

連結会計年度末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

② たな卸資産の評価基準及び評価方法

a 仕掛品

個別法による原価法

b 商品・貯蔵品

先入先出法による原価法（貸借対照表価額は、収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

(2) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。ただし、1998年4月以降に取得した建物（建物附属設備は除く）並びに2016年4月以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

② 無形固定資産（リース資産を除く）

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

③ リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

② 工事損失引当金

受注契約に係る将来の損失に備えるため、当連結会計年度末において進行中の業務のうち、損失の発生が見込まれ、かつ、その金額を合理的に見積ることができるものについて、損失見込額を計上しております。

(4) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、5年間の定額法により償却を行っております。

(5) その他連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項

① 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付に係る負債は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異は、発生年度に全額を費用処理しております。

② 重要な収益及び費用の計上基準

当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

③ 消費税等の会計処理方法

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式を採用しております。

(重要な会計上の見積りに関する注記)

(1) 連結財務諸表に計上した金額

のれん 299,919千円

(2) 見積り内容について連結財務諸表利用者の理解に資するその他の情報

のれんの減損の可能性について

当社のこれまでの企業結合の結果、2021年12月31日現在の連結貸借対照表にのれんが299,919千円計上されています。のれんの内訳は以下のとおりです。

のれんの発生要因	のれんが帰属する事業・サービス	企業結合年月	のれんの残高
株式会社アイ・エス・ピーの子会社化	ソフトウェア開発販売事業	平成30年10月	9,743千円
株式会社沖縄設計センターの子会社化	試験総合サービス事業	令和2年9月	85,174千円
株式会社アドバンスドナレッジ研究所の子会社化	ソフトウェア開発販売事業	令和3年3月	205,000千円
			299,919千円

のれんについて、5年間の定額法により償却を行っております。また、その資産性について子会社の業績や事業計画等を基に検討しており、将来において当初想定した収益が見込めなくなり、減損の必要性を認識した場合には、当該連結会計年度においてのれんの減損処理を行う可能性があります。

また、当連結会計年度末において、当初想定していた収益の達成は困難であると判断したことから、株式会社アースプラン及び株式会社クリエイトののれんを零まで減額し、減損損失を計上しております。

(連結貸借対照表に関する注記)

1. 有形固定資産の減価償却累計額 1,725,806千円

2. 偶発債務

当社が実施した工事に関連して、2012年8月に60,339千円の損害賠償請求の提起を受け、現在係争中であります。

(連結株主資本等変動計算書に関する注記)

1. 当連結会計年度末における発行済株式の種類及び総数

普通株式 14,221,995株

(変動事由の概要)

減少数の内訳は、以下によるものであります。

自己株式の消却による減少 775,700株

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決 議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基 準 日	効力発生日
2021年3月23日 定 時 株 主 総 会	普通株式	65,634	4.50	2020年12月31日	2021年3月24日
2021年7月30日 取 締 役 会	普通株式	63,998	4.50	2021年6月30日	2021年9月6日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決 議 予 定	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基 準 日	効力発生日
2022年3月23日 定 時 株 主 総 会	普通株式	利益剰余金	71,064	5.00	2021年12月31日	2022年3月24日

(注) 2022年3月23日開催の第37期定時株主総会において付議いたします。

3. 当連結会計年度末の新株予約権（権利行使期間の初日が到来していないものを除く）の目的となる株式の種類及び数

普通株式 16,000株

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

当社グループは、設備投資計画に照らして、必要な資金の一部を借入金及びリース債務により調達しております。資金運用については安全性の高い預金等を中心とし、一部を株式及び投資事業組合出資金に投資しております。

営業債権である受取手形及び売掛金は、販売管理規程等に従い債権管理を行っており、必要に応じて信用調査を行う等、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。また、投資有価証券は株式及び投資事業組合出資金であり、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2021年12月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時 価 (千円)	差 額 (千円)
(1) 現金及び預金	1,811,092	1,811,092	—
(2) 受取手形及び売掛金	1,350,446	1,350,446	—
(3) 投資有価証券	191,468	191,468	—
資 産 計	3,353,006	3,353,006	—
(1) 買 掛 金	358,212	358,212	—
(2) 未 払 金	280,588	280,588	—
(3) 長期借入金（※1）	912,116	911,047	△1,068
(4) リース債務（※2）	129,183	129,249	66
負 債 計	1,680,100	1,679,098	△1,001

(※1) 1年以内に返済予定の長期借入金が含まれております。

(※2) 1年以内に返済予定のリース債務が含まれております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらはすべて短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

- (3) 投資有価証券
株式は取引所の価格によっております。

負債

- (1) 買掛金、(2) 未払金
これらはすべて短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。
- (3) 長期借入金
元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。
- (4) リース債務
元利金の合計額を、信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(注2) 以下については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

(単位：千円)

	当連結会計年度 (2021年12月31日)
非上場株式	8,942
投資事業組合出資金	106,597

(1 株当たり情報に関する注記)

1 株当たり純資産額	306.62円
1 株当たり当期純利益	14.88円

(企業結合等関係)

取得による企業結合

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称：株式会社アドバンスドナレッジ研究所

事業の内容：熱流体解析ソフトウェア開発及び解析技術コンサルティング

(2) 企業結合を行った主な理由

株式会社アドバンスドナレッジ研究所は、熱流体解析ソフトウェア開発及び解析技術コンサルティング事業を営んでおり、他社に類を見ない先進性、独自性を有しております。近年、建設業界において、省エネと快適性に関するシミュレーションを設計側に求める事例が増加しており、これからの成長性にも期待でき、当社とのシナジー効果も期待できると考えております。本件株式取得により、当社の持続的成長、企業価値の向上に資するものと考えております。

(3) 企業結合日

2021年1月18日（株式取得日）

2021年3月31日（みなし取得日）

(4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

(5) 結合後企業の名称

株式会社アドバンスドナレッジ研究所

(6) 取得した議決権比率

100%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

現金を対価とした株式取得により、当社が株式会社アドバンスドナレッジ研究所を取得したため、当社を取得企業としております。

2. 連結財務諸表に含まれる被取得企業の業績の期間

2021年4月1日から2021年12月31日まで

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	880,002千円
取得原価		880,002千円

4. 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザーに対する報酬・手数料等58,148千円

5. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれん金額

241,177千円

(2) 発生原因

取得原価が取得した資産及び引き受けた負債に配分された純額を上回ったため、その差額をのれんとして計上しております。

(3) 償却方法及び償却期間

5年間の定額法による償却

6. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	625,602千円
固定資産	<u>192,190千円</u>
資産合計	<u>817,792千円</u>
流動負債	121,396千円
固定負債	<u>57,571千円</u>
負債合計	<u>178,967千円</u>

7. 企業結合が連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額

当連結会計年度における概算額の算定が困難であるため、記載しておりません。

企業結合に係る暫定的な会計処理の確定

2020年8月31日に行われた株式会社沖縄設計センターとの企業結合について、前連結会計年度において暫定的な会計処理を行っていましたが、当連結会計年度において確定しております。

なお、のれん金額に修正は生じておりません。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症の影響について

新型コロナウイルス感染症について、当連結会計年度における当社の事業活動へ与える影響は限定的であります。したがって、当連結会計年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響は軽微との仮定に基づいて、会計上の見積りを行っております。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大による影響は不確定要素が多く、将来において当社の財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

役員退職慰労引当金の廃止

連結子会社である株式会社沖縄設計センターは、第1四半期連結会計期間に開催した定時株主総会において、役員退職慰労金制度の廃止に伴う打切り支給を決議しております。

これに伴い、連結子会社の「役員退職慰労引当金」の全額を取り崩し、打切り支給額の3,363千円を流動負債の「未払金」に、15,678千円を固定負債の「その他」に含めて表示しております。

工事進行基準による収益認識

従来、工事完成基準を適用しておりましたが、原価管理体制の整備強化等に伴い信頼性のある見積りが可能となったことから、当連結会計年度末より、成果の確実性が認められる案件については工事進行基準を適用しております。

この結果、当連結会計年度において売上高が112,958千円増加し、営業利益、経常利益、税金等調整前当期純利益が27,372千円増加しております。

株主資本等変動計算書

(2021年1月1日から2021年12月31日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本						
	資 本 金	資 本 剰 余 金			利 益 剰 余 金		
		資本準備金	そ の 他 資本剰余金	資本剰余金 合 計	利益準備金	その他利益剰余金	
						固 定 資 産 圧 縮 積 立 金	別 途 積 立 金
当 期 首 残 高	1,204,820	1,154,820	498	1,155,319	12,500	23,818	165,000
当 期 変 動 額							
剰 余 金 の 配 当							
自 己 株 式 の 取 得							
自 己 株 式 の 消 却			△498	△498			
当 期 純 利 益							
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)							
当 期 変 動 額 合 計	-	-	△498	△498	-	-	-
当 期 末 残 高	1,204,820	1,154,820	-	1,154,820	12,500	23,818	165,000

	株主資本				評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金		自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
	その他 利益剰余金	利益剰余金 合計					
繰越利益 剰余金							
当期首残高	1,996,482	2,197,801	△24,047	4,533,893	△21,445	△21,445	4,512,448
当期変動額							
剰余金の配当	△129,633	△129,633		△129,633			△129,633
自己株式の取得		-	△142,672	△142,672			△142,672
自己株式の消却	△166,221	△166,221	166,719	-			-
当期純利益	201,642	201,642		201,642			201,642
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)					16,906	16,906	16,906
当期変動額合計	△94,212	△94,212	24,047	△70,663	16,906	16,906	△53,757
当期末残高	1,902,269	2,103,588	-	4,463,230	△4,538	△4,538	4,458,691

個別注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

① 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

② その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

(2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

① 仕掛品

個別法による原価法

② 商品・貯蔵品

先入先出法による原価法（貸借対照表価額は、収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。ただし、1998年4月以降に取得した建物（建物附属設備は除く）並びに2016年4月以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

(3) リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 工事損失引当金

受注契約に係る将来の損失に備えるため、当事業年度末において進行中の業務のうち、損失の発生が見込まれ、かつ、その金額を合理的に見積ることができるものについて、損失見込額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異は、発生年度に全額を費用処理しております。

4. 収益及び費用の計上基準

当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

5. その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理方法

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式を採用しております。

(重要な会計上の見積りに関する注記)

(1)当事業年度の財務諸表に計上した金額

	当事業年度
関係会社株式	1,583,813千円
関係会社株式評価損	17,314千円

(2)識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

関係会社株式のうち、時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式については、実質価額が貸借対照表価額と比較して著しく低下している場合、回復可能性の判定を行った上で減損要否の判定を行っております。なお、超過収益力等を加味して取得した子会社株式については、実質価額の算定に当たって超過収益力を含めております。

このように、超過収益力を含む実質価額の評価や回復可能性の判定には経営者の判断が含まれることから、将来の不確実な経済条件の変動などによって影響を受ける可能性があります。

(貸借対照表に関する注記)

1. 有形固定資産の減価償却累計額 1,622,068千円
2. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務（区分表示したものを除く）
短期金銭債権 5,274千円
短期金銭債務 3,970千円

3. 偶発債務

当社が実施した工事に関連して、2012年8月に60,339千円の損害賠償請求の提起を受け、現在係争中であります。

(損益計算書に関する注記)

関係会社との取引高

営業取引による取引高

完成業務原価	11,955千円
地代家賃	174千円
支払手数料	2,037千円
営業取引以外の取引による取引高	40,255千円

(株主資本等変動計算書に関する注記)

当事業年度末における自己株式の種類及び株式数

普通株式	9,000株
------	--------

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、以下によるものであります。

譲渡制限付株式報酬制度における株式の無償取得による増加	12,500株
-----------------------------	---------

東京証券取引所における市場買付による増加	360,000株
----------------------	----------

減少数の内訳は、以下によるものであります。

自己株式の消却による減少	775,700株
--------------	----------

(税効果会計に関する注記)

繰延税金資産の発生主な原因は、退職給付引当金、減価償却超過額、投資有価証券評価損等であり、繰延税金負債の発生主な原因は固定資産圧縮積立金であります。

(1株当たり情報に関する注記)

1株当たり純資産額	313.71円
-----------	---------

1株当たり当期純利益	14.06円
------------	--------

(企業結合等関係)

連結計算書類「連結注記表（企業結合等関係）」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(追加情報)

連結計算書類「連結注記表（追加情報）」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。